

第1回広島大学工学部国際駅伝大会を終えて

平成元年2月4日午後1時、吉田典可工学部長の合図によって、第1回広島大学工学部国際駅伝大会のスタートが切られた。

事の起りは12月の終わり、留学生との懇親パーティーの席上でのことであった。これは、留学生とそのチューターと先生方との交流を深めるために企画されたものである。この時、より親睦を深める催しができない事がという話がでた。誰からともなく“それならスポーツがいい”、“しかし野球とかサッカーなどは得意不得意があるのでは”、“それならマラソンはどうだろう”、聞こである先生から駅伝はどうかという案がでた。確かに駅伝は多大な効果があるものとなるだろう。この話は賛同を得られて、日程も決められその世話を我々ですることになった。

年が明け、学部長に協力を求め学部長杯を出していただくことになり厚生補導係、事務の協力もいたすことになった。思いもよらぬ大きな行事となってきた。こうなるといい加減な事では済まされない。この日から我々の頭の中は駅伝大会の事でいっぱいになった。ビラ作り、チームの募集、用具の準備などを行い、安全を期すため西条警察署の許可を得て、また傷害保険のため保険会社にも足を運んだ。工学部らしさを出すためその場で結果の集計が行えるプログラム作りも並行して行った。また中国新聞社に協力していただき、横断幕や入賞チームの賞品などを手配していただいた。準備はだいたい整ったがこの時点で最も心配していたのは“参加チームが集まるだろうか”ということだった。

1月28日に申込みを締め切った。参加チームは20チーム、内留学生チームは中国、大韓民国、インドネシア、マレーシア4チームであった。20という数字は予想していた数を大幅に上回ったものであった。

であった。ただし留学生チームの数は来年以降もっと増やしたいものだと思っている。

そして当日、絶好の駅伝日和に恵まれ午前中にテント張り、パソコンの設置などの準備を終えていろいろな不安を感じながらもスタート、そして1時間半後最終ランナーゴールイン。事故もなく競技は終了し、結果集計で少し遅ればしたが閉会式を迎えた。学部長にお言葉をもらい、結果発表、表彰式と滞りなくすみ、第1回国際駅伝大会は終わった。



第1回目といふことでいろいろ分がらないことがかりで苦労の耐えなかった大会であったが我々にとってもいい経験になったし、また留学生との親睦を深めるという第一目標も僅かではあろうが達成できたのではないかと思っている。第1回目としてはうまく運営できたと満足しているが、第2回大会からは今回の反省点を生かしてより良いものにしたいと思う。

最後になったが協力していただいた中国新聞社、東広島ホストファミリーの皆さん、そのほかいろいろお世話してくださった方々に心からお礼を申し上げる次第である。